

常なる磐

つねなる いわ

令和2年5月29日(金)号

◇ あたりまえ

これまで勤務した複数の学校と本校との大きな違いを、毎日、肌で感じている。

「肌で感じるよさ」とも言い換えられる違いのひとつは、本校が「豊かな自然環境に建つ学び舎」であること。そして、それを最も感じることでできる場所を校内に見つけた。常東ランドに面した体育館北側のエリアである。

陽の当たりにくい狭く限られた空間ではあるが、その構造がゆえに常磐の自然を凝縮する風を作る。山側から流れる風は、体育館に当たって方向を変え、勢いを増して西のグラウンド側に抜ける。この時期となっても冷気を含むこの風は、何とも気持ちよく、特に早朝は、豊かな自然特有のさわやかな香りを含む。自然豊かな旅先の早朝の山で肌で感じる風、そのものである。

なるほど、校内でも、緑豊かな自然に直面する場所はここだけ。耳を澄まさずとも聞こえてくる野鳥の鳴き声も近い。中でも、ウグイスの声色は絶品である。

「ホー ホケキョ」はイメージ。実は、いろいろな鳴き方があることも知る。

「ホー—— ホケキョ」 頭の部分が長いと趣に深みが出る。

「ホー—— ホケキョキョ」 この鳴き方が一番多いようだ。

「ホー—— ホケキョ ケキョケキョケキョ」
鳴き方だけではない。音程も様々。まさに、鶯(鶯)十匹十色である。

こうした野鳥のさえずりが、あたりまえのように普通に聞こえる。

「肌で感じるよさ」が普通にあることを幸せに思う。

さて、学校再開準備期間を経て、いよいよ週明けの月曜日から本格的に学校が再開される。

限られた時間帯でしか聞くことのなかった「子供たちの声」が、「常なる声」として帰ってくる。これまで、あたりまえだと思っていた、あたりまえでない普通。

このあたりまえでない普通を大切に、職員一同、頑張っていく所存である。